

■ 会長の時間

伊達 紫 会長



会長挨拶

皆さん、こんにちは

急に寒くなって参りましたが、体調は大丈夫でしょうか。

先週の日曜日、11月17日、宮崎県中部グループと南部グループ主催で、国際ロータリー第2730地区のインテリジェンティミーティング(略してIM)がシーガイアコンベンションセンターで開催されました。当クラブからは、梶田会員、勢井会員と私の3名が参加しました。今年のテーマは「ありがとう、ロータリー」ということで、ロータリーのポリオフリーへの闘いが始まった1979年にフィリピンで、ある子どもにワクチンを投与した後、横にいたその子の兄が、当時のジェームスLポーマー会長に、「ありがとう、ロータリー」と言ったという逸話に基づいて設定されたということでした。10時に井上竜志実行委員長より開会宣言があり、宮崎県南部グループの峰松俊夫ガバナー補佐による点鐘、ロータリーソング斉唱、ホストクラブである宮崎南RC大迫雅浩会長の挨拶、2730地区笹山義弘ガバナーの挨拶、宮崎県中部グループ戸高ガバナー補佐の挨拶と続きました。続いて「ウイルスとロータリー」という演題名の基調講演が、医学博士である峰松ガバナー補佐により行われました。初めに、お話しされたのは、根絶されたウイルスの代表として、天然痘(痘瘡)の話がありました。

1749年にイギリスのバークレイという乳牛の放牧が盛んな酪農地帯で生まれたエドワード・ジェンナーは、古くからイギリスの酪農地帯では、牛の皮膚に痘疱がでる伝染病(牛痘)がたびたび流行し、牛痘ウイルスに感染した乳牛の乳房には多数の痘疱がでる、さらに、乳搾りをする際にこの痘疱に触れると、手の傷から牛痘ウイルスに感染し水疱を発生、それから2~3週間後にはかさぶたとなって治癒するという事を見つけていました。そしてジェンナーはこの牛痘に罹患した乳搾りを行う人たちは天然痘にかかりにくいことに着目し、牛痘にかかると天然痘に対する抵抗性ができるのではないかと考えました。1796年の実験において、被験者となったのはジェームス・フィリップスというジェンナー家の使用人の少年でした。ジェンナーは乳搾りを行う女性にできた水疱から液体を取り出し、取り出した液体の一部をジェームス少年の腕につけた傷から接種するという実験を行いました。こうしたやり方でジェンナーは何度も実験を繰り返し、その過程で少年に接種する水疱の液体の量を徐々に増やしていきました。接種から6週間後、ジェンナーは少年に天然痘を接種し、その後少年が天然痘の症状を示さないことを見出しました。これが、種痘の発明、ひいては天然痘ワクチン開発のきっかけになりました。

その後、天然痘ワクチンは世界中で使用されるようになり、ジェンナーによる種痘の実験から約200年後の1980年5月、世界保健機関(World Health Organization; WHO)は天然痘の世界根絶宣言を行いました。以降、現在に至るまで世界中で天然痘患者の発生はありません。天然痘は国際社会の協力により人類が初めて根絶したウイルス感染症です。ただ、近年の研究で牛痘ワクチンの遺伝子は痘瘡ワクチンとは異なっており、実は接種していた痘瘡ワクチンは馬痘ワクチンだったことが判明したそうです。

さて、ロータリーでは「ポリオの根絶」を目指して活動してきたことは、「ありがとう、ロータリー」の言葉からも皆さんよくご存知だと思います。では、ポリオとはどんな病気でしょうか?昨日まで元気に遊んでいた子供が、2,3日高熱が続いた後、解熱と共にくる突然の麻痺により歩けなくなり、上肢も不自由になり、さらに手足が変形していくといった伝染病で、古代エジプト王朝の壁画にも描かれているそうです。日本では、1960年に北海道を中心に5,000人を超える感染者を出したそうで、当時の保健所には不安におののく親たちがワクチンを求めて殺到した事態もあったそうです。当時の日本には即効性のあるワクチンがなかったため、1961年にソ連とカナダから経口生ワクチンを輸入しました。冷戦時代のソ連からの輸入には大きな苦労があったとも言われています。1963年から定期接種が開始された結果、1980年の1例を最後に、現在まで野生型ポリオウイルスによる新たな患者は日本では出ていません。ポリオの感染経路は、汚染された水などによって口から入り、腸で増殖して全身に広がります。腸で増殖したウイルスは便として排出され、衛生状態が悪い場合には、そのウイルスが飲み水などから多くの人の口に入ります。感染拡大はこのようにして起こります。ただ、ポリオに感染して症状が出るのは約5%と言われており、症状のないまま移動の先々でウイルスをまき散らす恐れがあります。それを防ぐためにも、ワクチンが必要ということです。

ポリオには野生型と伝播型の2種類があります。野生型には1型から3型まであり、2型は2016年に、3型は2019年に根絶されたと発表されました。ロータリーでは残る1型の根絶に向けて活動していることとなります。ご存知のように、野生型ポリオの常在国は、アフガニスタン南部とパキスタン東部に限られていると言われていましたが、峰松先生の話では、ガザ地区で25年ぶりに患者が出たとの報告もあるそうです。

では、伝播型とはどういうものなのでしょうか。伝播型は、ワクチン由来ポリオウイルスのことで、野生型感染の終息時に関連麻痺を引き起こします。ワクチンには、経口生ポリオワクチンと不活化ポリオワクチンの2種類があるのですが、大規模流行時に使用する経口生ポリオワクチンにはワクチン由来の関連麻痺があるため、終息期は不活化ワクチンに移行する必要があります。まずは、安価な経口ワクチンを広めることで、野生型ウイルスを根絶した上で、不活化ワクチンに移

行する方法が世界の流れだそうです。

今回、IMに参加することで、あらためて「ポリオ根絶」に向けたロータリーの取組みの必要性を学ぶことができました。皆さんも、ぜひ、来年以降、IMに参加し学びの一助とされてはいかがでしょうか。

■ 幹事報告

辻 清 幹事



① 退会者について

隈元正行会員、中田哲朗会員、羽佐間尚久会員(幹事)

一身上の都合により退会届が提出され、2024.11.12 理事会にて審議の上、退会が承認されましたので報告いたします。

② 欠員による幹事選任について

羽佐間前幹事の退会に伴い、【細則第2条理事会第4節役員理事の欠員】に基づき、2024.11.12 理事会にて後任幹事の審議が行われ、辻副幹事が幹事となることと決定いたしましたので報告いたします。

③ 2024-2025 年度年次総会について

2024.12.17 第 145 回例会の時間内に 2024-2025 年度年次総会を開催いたします。メールにて開催案内と出欠、欠席の場合の委任状を送付しております。期日厳守で返信をお願いします。

④ ロータリー月信について

ロータリー月信が3冊届いております。月信の拝読はロータリアンの義務の一つです。例会内に回覧しますが、MyRotary からも閲覧できますので、必ずご拝読をお願いします。

⑤ 第3回奉仕プロジェクト部門勉強会(ZOOM)について

地区より第3回奉仕プロジェクト部門勉強会 (ZOOM) の案内が来ております。事務局よりメール配信いたしますので希望者は申し込みをお願いします。

⑥ 2024.11.12 第 142 回例会での米山奨学とロータリー財団募金報告について

米山奨学 2,759 円 ロータリー財団 1,891 円

⑦ MyRotary でのラーニングセンターについて

MyRotary にてロータリアン教育を受けることができるラーニングセンターが開設されています。活用してください。

⑧ 2024.11.12 クラブ協議会について

クラブ協議会が開催され、各委員会より活動報告、進捗、課題が発表されました。

その他にて、例会出席における駐車場不足について意見が出ました。出席率低下の原因の一つかと考えられますので、対応をしたいと考えます。

明石会員より、「大学側と協議しています。お時間ください。」とお返事がありました。

以上

■ 出席報告

会員数	37 名	第 142 回例会修正
出席者数	22 名	会員数 37 名
欠席者数	15 名	出席者 19 名
出席率	40.54%	メイクアップ 2 名
		修正出席者数 21 名
		修正出席率 56.76%

※竹井 倫世会員、本田 利弘会員がメイクアップされました。

■ 卓話

竹井 倫世 会員

(株)コンフォートダイナー副社長の竹井と申します。この度は卓話の機会を頂き、心から感謝申し上げます。

宮崎県に婚姻をきっかけに移住し、21 年が経ちました。

実は 21 年以上前から宮崎県へ休暇の度に遊びにきており、早く宮崎へ来たいと、押しかけ的に参りました。そこで頂いた様々なご縁から、現在の活動が生まれています。ご縁とつながりの大切さを心に、お話をさせていただきます。

宮崎の食との出会いから、みやざきブランド食材を PR するアンバサダーのお役目を頂きました。活動をしながら、将来の宮崎フードビジネスをより豊かに出来る様取り組んでいきたいと食育活動【味覚の授業】をはじめました。現在では宮崎県内 79 校約 3,000 名 (昨年度) の児童に行う大きな食育活動となりました。

そして、コロナ禍。

大きな赤字を背負っての事業再建は苦しいものがありますが、そんな中、報道の皆様に取り上げて頂く機会を経て、より多くの皆様へコメンテーターとして発信する機会を頂くようになりました。特にテレビは秒数を大切に作る世界、お陰様で、秒単位で物事を言うためにはどのような言葉選びが必要かを考えるようになりました。

宮崎県は生産額ベースで食料自給率、全国 1 位です。

私達宮崎県のフードビジネス業界は、日本の食糧宝庫であることに誇りを持ち、

- ① 子供達へ味覚の表現豊かに宮崎の食を PR 出来る様、食育活動を行う
- ② 学生たちへアルバイトを通して、どのような緊急事態が起こっても自身で生きるために食べることを教える
- ③ 持続可能なビジネスモデルの構築
- ④ 魅力的な街づくり

を行って参りたいと考えています。

今後ご縁を大切に、頂いた機会に真摯に向き合い、誠実に取り組んでいきたい、そのように考えております。このような機会を頂き、この場で日頃の皆様からのご支援に心より感謝申し上げます。

